

# 稼げる介護 目指します

低賃金で重労働といわれる介護業界。それでも現場では1つの職業として介護を選び、生き生きと働く20代の姿が目につく。ボランティアのような奉仕の精神ではなく、労働に見合った報酬と自分のための余暇をしっかりと確保しようとする。かといって、接する高齢者に対して冷めているわけでもない。彼らの仕事ぶりは「職としての介護」を社会に根づかせる原動力になるかもしれない。

「いま私が辞めたら、現場は回らなくなってしまう。のども2時間くらいは残業する」。石川県小松市の特別養護老人ホームに勤めて6年目の宮本由紀子さん(26、仮名)は月に5回以上、泊まり勤務をこなす。「明け



## やりがいバネ 将来担う

それでも残業手当はきっちり申請する。介護といえは作業のきつさと給料の安さをまず連想する。離職率も高い。「3年もいればベテランと呼ばれる」と宮本さんは苦笑する。ただ、離職後再び、介

護の世界に戻る人が少なくない。「つらいことが大部分なのに離れてみるとオフイスワークよりやりがいがあった、よく見えるみたい」。外資系生命保険会社に転職し、1年で介護現場に戻った経験のある藤川弘信さ

ける「金井原苑」(川崎市)に勤める川内潤さん(29)は力を込める。かつて、介護の仕事をする両親に反発した。「ボランティアなのか、移りたいのか。なんだか偽善者のように思えた」という。

心は貧しい国だと感じた。社会的弱者を支援することの尊さを思い知った。大学卒業後、インターンシップで働いた老人ホームの紹介会社に就職し、2005年には独立して自分の会社を興した。父親が営む訪問入浴サービスの会社で2年間、修業もした。

「自分たちが楽しく働けば介護業界を目指す人も増える」。認知症の高齢者を受け入れるデイサービス施設の開設に奔走する。空き家を借りてコストを抑え、介護報酬が比較的高い事業を手がけて利潤を追求する。ただ「介護保険制度に依存した事業モデルには限界がある」と悩みも抱える。

「社会貢献をもつかるビジネスに変えていくのは自分の世代の責任だ」。特別養護老人ホームなどを手掛

ん(仮名、35)は「可処分所得は生保時代の方が少なかった」と振り返る。完全歩合給だったからだ。さらに競争に追われる職場環境が肌に合わなかったと、心境を打ち明ける。

転機は高校2年の時に訪れた。手を複雑骨折して腰の骨を移植する手術を受け、1カ月半、病院で車いす生活を送った。片手しか使えず、緩いスロープを上るのもひと苦労。病院内のエレベーターはこんでいて、車いすが乗る空間を空けてくれる人すらいない。エレベーターを何台も見送りながら、「豊かな日本に生まれて幸運、なんてウソ」。

他人の役に立っていると実感できるのが介護の仕事の魅力だ。マニュアル通りにはいかず、創意工夫が求められる点もやる気を刺激する。従事する人はいずれも高齢者への関心が強い。核家族化が進みながらも、少子化によって祖父母と孫の関係が密になっていることが影響しているようだ。

「社会貢献をもつかるビジネスに変えていくのは自分の世代の責任だ」。特別養護老人ホームなどを手掛

ん(仮名、35)は「可処分所得は生保時代の方が少なかった」と振り返る。完全歩合給だったからだ。さらに競争に追われる職場環境が肌に合わなかったと、心境を打ち明ける。

他人の役に立っていると実感できるのが介護の仕事の魅力だ。マニュアル通りにはいかず、創意工夫が求められる点もやる気を刺激する。従事する人はいずれも高齢者への関心が強い。核家族化が進みながらも、少子化によって祖父母と孫の関係が密になっていることが影響しているようだ。

祖父母と同居していたこともあり、祖父母への恩返しのような気持ちで選んだ職業だが、今では夢にも仕事が出てくるくらい生きがいになった。「福祉で食べていく強い意志で仕事を続ける」ときっぱり言う。

### 音楽の力は大きい

プロの音楽療法士としてグループホームを訪問する柴田萌さん(24)。プログラムにはなじみのある季節の歌や、演奏しやすい打楽器を採り入れる。部屋にこもりがちだったお年寄りも音楽の力で輪の中に入ようになった。「今では結婚相手まで紹介されそう」と笑顔で話す。(東京都町田市)

＝写真 沢井慎也

介護保険制度が始まった2000年を境に、介護はサービス業とらえられるようになった。20代の多くは営利事業と割り切ることにも抵抗がないようだ。特定非営利活動法人(NPO法人)、神奈川県介護支援専門員協会の阿部充宏理事長は「我々が20代のころは介護という感情論が先行したが、今は『仕事はきちんとしてやるので、ちゃんと給料もください』とはっきり言う」と評価する。残業時間を計算し、私生活を守る姿勢も、他の職業と大差はない。

### 生活設計 現状は厳しく

地位向上や待遇改善の道を切り開こうという意欲が伝わってきた。とはいえ人手不足は依然、深刻だ。9月の介護関連職の有効求人倍率は1.34倍で全体より約0.9倍も高い。介護施設では1年未満の離職者が約4割いる。介護・福祉を教える大学や専門学校は定員割れを起し、廃校に追い込まれる例もある。なぜだろうか。待遇の悪さだけが要因とは思えない。介護の仕事に意欲を示しながらも断念する理由には、親の反対や職場環境への不安があると聞く。将来の生活設計が難しいという、そこで得たスキルは他の業種に転用しにくいといった事情がある。こうした問題の解決は難しいが、心理的負担を軽減するだけでも、若者の力を生かすことにつながる。